研究テーマ

# 「自発的・自治的な活動ができる児童生徒の育成」

## ～児童生徒が目的意識をもって取り組む学級活動（１)の工夫を通して～

特別活動推進研究班

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

学習指導要領における特別活動の目標は３つ示されている。その中の（１)「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。」は特別活動で育てる知識及び技能に位置付けられ、話合いの進め方やよりよい合意形成及び意思決定の方法などを身に付けることが求められている。

本研究班において邑楽町の児童生徒の学級活動（１）における実態を情報交換したところ、低学年では「話合いがまとまらない」「話合いの進行がスムーズにできない」、中学年では「自分の意見に固執しすぎてしまう」、高学年や中学校では「目的意識をもって話合いに臨めない」「話合いがうまくまとまらない」などの意見があった。話合いの進め方やよりよい合意形成及び意思決定の方法を学ぶことは、集団生活や人間関係をよりよいものにするために必要である。こうしたことから、教師の願いとして、学級における諸問題を発見し話し合う活動を通じて自主的かつ適切に集団に関わる態度を育てること、また、邑楽町全体で学級会に取り組み、小学校から中学校の９年間で段階的に話合いのスキルを向上させることで、社会に出た時に集団の中で自ら考え行動できる児童生徒を育成することの２点を共有した。

上記を踏まえ、学級活動（１）における邑楽町全体の課題を、①目的意識をもたせる工夫、②話合いをまとめるための工夫の２点に整理した。

これらの課題を解決するため、本研究テーマ「自発的・自治的な活動ができる児童生徒の育成～児童生徒が目的意識をもって取り組む学級活動（１）の工夫を通して～」を設定して、学級活動の実践を重ねながら研究していくこととした。

## Ⅱ　研究内容

学級活動（１）における課題解決のため、以下のように手立てを設定した。

＜手立て１＞

〇目的意識をもたせる工夫

・必要感のある議題の設定と提案理由の明確化　　・事前の告知やアンケート

・提案理由や話合いの目的の明確化　　・ロイロノートの活用

・振り返りの充実

＜手立て２＞

〇話合いをまとめるための工夫

・掲示物の充実　　・計画委員との打合せ

・折り合いをつけるための支援　　・思考ツールの活用

・振り返りの充実

## Ⅲ　成果と課題

### １．成果

〇事前にアンケートを取るなどし、提案理由や話合いの目的を明確化し、さらに提示しておくことで、目的意識をもって話合いに取り組むことができた。

〇振り返りと事後指導を充実させることで、クラス（個人）がよくなったことを実感し、次の学級会にも目的意識や必要感をもって取り組む様子が見られた。

〇話合いで何かを決める際、「みんなで毎日取り組める」など条件や観点を与えることで、実現性のある方法や効果の出そうな方法を考えようとする姿が見られた。

### ２．課題

●昨年度からの取組である３～４人の小グループでの話合いを取り入れた際、全体で考えさせたい内容が少人数での話合いの段階で消化されてしまい、全体での話合いが淡泊な内容になってしまう場面があった。

●「比べ合う」から「まとめる」の場面において、班ごとの意見交流の段階で、すでに意見が固定されてしまうことがあったので、多様な考えを大切にするための折り合いの付け方のさらなる工夫が必要である。

●事前の活動において、学級会を充実させようとするほど計画委員が休み時間等を準備に費やすことになってしまったので、時間の確保の仕方を工夫する必要がある。